

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 増加する後期課程学生・研究員への対応のため、後期課程指導教員、後期課程セミナーの担当者を増員する。	→後期課程指導教員数。言語コミュニケーション文化セミナーの担当者数。	A
2. 教員の資質向上を図るため、FDワークショップを毎年実施する。	→FDワークショップの開催数、参加者数。成果公表。	B
3. 各研究領域の教員数に関する基本方針を明確にし、アンバランスを是正する。	→基本方針の策定。	B
4. 2007年に開設した日本語教育学プログラムの充実のため、日本語教育担当教員の採用を行う。	→途中退職者の教員補充の円滑な実行。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

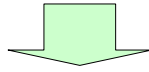
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 11.0.1	(方針) 研究科の教授会組織として研究科委員会を開催し、教育・研究に関する重要事項を協議する。研究科委員会の下に、4名の委員からなる執行部会を設け、必要な業務を執り行う。各学部に分属されている外国語担当教員の中から言語コミュニケーション文化の各領域(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)を担当可能な教員を選び、研究科教員として専門別に配置する。 (現状説明) 現在、38名の専任教員は各々4領域に属している。内訳は言語科学(8名)、言語文化学(17名)、言語教育学(8名)、日本語教育学(5名)。
☆ 小項目 11.0.2	現在、38名の専任教員がおり、教員組織は充実している。
☆ 小項目 11.0.3	専任教員を、研究・研究業績によって大学院教員、前期課程指導教員、後期課程指導教員の3段階に分け、採用、任用を適切な手続きによって行っている。1999年度以降の採用人事(14件)はすべて公募制をとっている。
☆ 小項目 11.0.4	毎年、3月末に教育・研究業績を大学に報告している。研究科委員会での懇談や講演会などによってFDを実施している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.1	専任教員を各々4領域のグループに分けて、それぞれの領域について、カリキュラムの責任者を決めて、毎年カリキュラムを検討することによって各領域を活性化させている。
小項目 11.0.2	毎年、2～3名の専任教員の採用、5名～8名の任用を適切な手続きによって行っている。
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



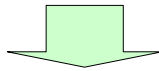
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	引き続き、専任教員の採用を行うと同時に任用人事を積極的に行う。
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	増加する後期課程学生の対応のため、後期課程指導教員、後期課程セミナーの担当者を増員する。日本語教員の増強。
小項目 11.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	2010年度中に、後期課程指導教員の増加、及び規程改正により後期課程セミナーの担当者を増員する。日本語専任教員採用の人事を進める。
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
--------------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○FDワークショップの活動実績、成果について、記述することが求められます。

【学内委員】

○「後期課程指導教員、後期課程セミナーの担当者を増員する。」ことの進捗評価は「A」となっていますが、改善すべき事項にも同様の事が記されており、進捗評価基準が気になります。

○目標に対して、おおむね進捗していると判断されます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 2011年度より後期課程指導教員 4名の増員を予定しており、進捗評価をAとした。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
